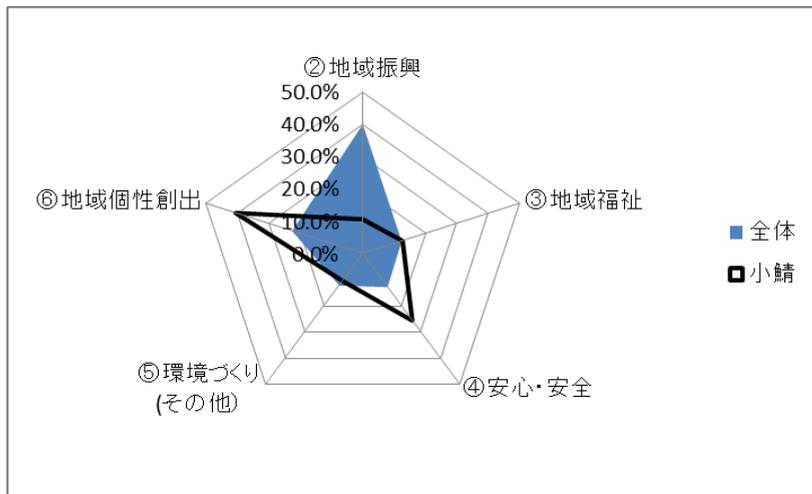


小鯖地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(平成30年度)

■地域の情報

地域人口	4,494人	自治会数	23
世帯数	1,721世帯	自治会加入率	86.6%

※数値は、平成31年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	7,508,000 円
交付金決算額	7,444,909 円
その他収入	322,525 円
交付金決算額／配分額	99.2%

各分野の決算

①協議会運営	5,344,296 円
②地域振興	257,147 円
③地域福祉	308,005 円
④安心・安全	619,847 円
⑤環境づくり(土木工事)	円
⑤環境づくり(その他)	252,949 円
⑥地域個性創出	985,190 円
決算総額	7,767,434 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

地区住民及び各種団体が連携・協力して、豊かで住みよい安全な地域づくりを進める。

■総括

平成30年度から、「第三次小鯖地域作り計画」に基づいて事業を推進しました。特に「若い世代の地域づくり」に重点をおきました。従来からの部会による事業と、実行委員会形態の若い世代の活動とがうまく融合して事業を推進できたと思います。平成31年度以降は地域づくり協議会全体の事業の見直しを進め、さらに各委員が率先して取り組めるような体制作りを検討していきます。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局費
② 地域振興	地域活性化応援、コミュニティ交通運行応援、特産品創出、若者のびのび事業、さばろっち活動、
③ 地域福祉	生きがいづくり支援、高齢者サポート、ふれあい配食サービス、子育てサロン支援、子どもの家設立研究
④ 安心・安全	防火防犯対策、子どもの見守り隊の充実推進、遊び場確保支援、防犯灯設置推進補助、交通安全運動推進、小鯖自主防災訓練・研修の推進事業、災害発生防止対策、避難時必要資材充足
⑤ 環境づくり	花いっぱい運動推進、一斉清掃活動推進、萩往還整備、鳴滝公園の観光地化推進、正田山の環境整備、
⑥ 地域個性創出	あいさつ運動の推進、ニュースポーツの振興、伝統行事の継承推進、社会教育協賛、小鯖夏まつり、小鯖ふるさとまつり、竹馬世界選手権大会

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	若者のびのび事業(竹馬世界選手権を含む)	決算額	183,184円
	目的	地域の若いメンバーを中心に企画立案を行い、地域の担い手育成につなげる。		
	実施内容	①地域の若手による企画立案による事業実施(鳴滝クリーンキャンペーン) ②第2回竹馬世界選手権		
	実施時期	①平成30年12月～平成31年3月(計3回) ②平成31年2月17日(日)		
	参加人数	①延べ37人 ②参加者約130人 スタッフ 60人 合計190人		
	成果	①長年の懸案であった鳴滝猫問題の解決に向けたスタートを切ることができた。 ②部会から地域の若手に運営を転換し、効果的に運営、地域文化を発信できた。		
	評価	①困難な問題に対して、継続的に情報収集を行い、具体的な活動を行なうことで、自治会を交えた問題解決のスタートが切れた。 ②役割分担や情報共有を丁寧に行い、来年以降も携わりたいという声が多く聴かれた。		
	今後に向けて	①若者のびのび事業をより活用したい事業に再構築する必要がある。 ②前年の反省を踏まえて、より効果的かつ効率的な運営を検討していく。		
②	事業名	高齢者サポート	決算額	23,661円
	目的	①高齢者の日常生活の支援 ②高齢者在宅家族のサポート研修		
	実施内容	①高齢者の日常生活の支援(草刈・清掃・不要物搬出処分等) ②高齢者在宅家族のための研修の開催。		
	実施時期	①夏季 2件・冬期 2件 ②平成31年3月10日		
	参加人数	①日常支援生活作業・・・12人×4回 ②高齢者在宅家族サポート研修 40人		
	成果	①実施内容はよいものの、利用件数が減少傾向にある。 ②多くの参加があったが、意図した対象と異なる参加が多くあった。		
	評価	①実施内容がよいが、利用件数が伸びていないので、運営方法に検討が必要。 ②初めての実施であるが多くの参加があった。意図した層に、訴えかける必要がある。		
	今後に向けて	①・②とも 北東包括支援センターと連携・協力し、より効果的なメニューを目指していく。		
③	事業名	空家調査及び交通安全啓発活動	決算額	49,049円
	目的	①空き家の現状を把握するための調査を行ない防火防犯対策につなげる。 ②交通安全運動の推進		
	実施内容	①各自治会長に依頼し、空き家の実態を調査した。②夏まつり・ふるさとまつりで普及啓発活動を行なったほか、交通危険箇所調査を行なった。		
	実施時期	①調査:7月10日～8月末 まとめ 9月11日 結果説明11月8日 ②夏まつり(8月11日)・ふるさとまつり(11月18日)、交通危険箇所調査		
	参加人数	①23自治会長 ②夏まつり 約210人 ②ふるさとまつり 約115人		
	成果	①対象1900件を調査し、97件の空き家を確認。そのうち対応が必要なものを確認した。 ②特設ブースにて、交通安全啓発活動を行なった。		
	評価	①自治会を通じて、現状の把握を行うことができた。 ②参加体験型の取り組みを多くの方に提供できた。		
	今後に向けて	①地域で問題に対して対応できるように、継続して取り組みを行なう。 ②まつりの機会に啓発事業がなじむかどうか、負担軽減の観点から要検討。		